

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	応用演技Ⅱ	
開設学科	声優・演劇科	コース名	俳優・タレントコース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	40時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	レジュメ・資料は必要に応じて配布。参考資料等は授業内で指示する。				
担当教員情報					
担当教員	長谷川浩司・尾花宏行		実務経験の有無・職種	有・俳優 ディレクター	
学習目的					
企画制作演習Ⅰによって理解できたことを生かし、芸能活動を送る上でのセルフプロデュースの重要性を再確認するとともに、自己の資質をより明確にイメージさせることによって、発展した発想ができるようになる。コンテンツが多様化している現在において、自分の進む業界に対しての意識、どのような人間が芸能界に必要されているかを考え、求められる人材になりえる方法の考察、オリジナリティーに富んだ発信・表現ができるようになるのがねらいである。					
到達目標					
この科目を受講することによって学生が、多様化する芸能界において、これから迎える新技術に対応していくべく、時代と共にある手法を体験しながら企画制作演習Ⅰで養われた感性を用いつつ、舞台実習や他の科目で学んだ役者としての技術を併用しながら、役者にとってどういった方法で自己表現をすることが有効かを考え、実践できる能力を養い、セルフプロデュースを理解する。そして、それを形にするための手順や手法、技術をさらに体得し、自分のアイデンティティを確立することを目標とする。					
教育方法等					
授業概要	個人ワークから始まりグループワークへ移行していく。演劇のメソッドとして、インプロビゼーションを取り入れつつ企画・構成を考えながら進める。自己の表現と他者の表現の違いを意識しながらよりよい表現方法を模索し、セルフプロデュース能力を育成。個人での企画制作とグループ単位での企画制作の相違点を理解し、一つのコンテンツを仕上げ、自己表現のあり方を習得することを目指す。				
注意点	コミュニケーションを重視し、役割分担等、得意分野に限らず、主体的意思の元に行動し学ぶ姿勢を持つ学生を高く評価する。自らが考え、答えを導き出す事に重きを置き、積極的に参加することを求める。理由のない欠席は認めない。恒常的に出席することが基本原則である。課題として課する物の提出は必ずする事。授業時数の4分の3以上出席をしない者は定期試験を受験する資格はないものとする。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	60%	試験課題を総合的に評価する		
	成果発表 (口頭・実技)	20%	授業時間内に行われる発表内容について評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加態度、事前準備の有無によって評価する		
授業計画（1回～10回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	改めてセルフプロデュースを考える	自分の資質を見極め、何が向いているかを発見する。			
2回	その他のコンテンツについて	発見した自分の資質を展開、形にするためにはどうすべきかを理解できる。			
3回	ラジオドラマ制作（1）	声のみの表現について理解する。			
4回	ラジオドラマ制作（2）	ラジオドラマ作成のための企画の立案。			
5回	ラジオドラマ制作（3）	企画したものの収録にあたっての準備をする。			
6回	ラジオドラマ制作（4）	スタジオにて収録。			
7回	ラジオドラマ制作（5）	スタジオにて収録、編集などの段取りを組み、形にする。			
8回	ラジオドラマ発表・意見・討論	発表したものを考察、自分の表現の引き出しを増やす。			
9回	特技について考える	セルフプロデュースの1つのコンテンツとして何ができるかを決める。			
10回	特技発表・意見・討論・まとめ	他者の特技をみつつ、自分に取り入れるものを見定め、考える。全体のまとめ。			